

編輯室の内外

夏全く去れるにはあらざれど一葉の落つるを見ずして既に秋景に入りたるを覺ゆ、涼氣肌にふるるの朝を利し筆硯を督して九月號の編輯を終ることを得た、刊行に日あり、編輯の怠るを許されざるは春夏秋冬を通じての編輯子に負はされたる重荷である、されど幸に玉稿の蝸集する援護の力の大なるものあるが爲めに何等の苦惱なし、唯感謝ある耳。

潮内相は「過去十數年地方行政の情勢を見ると全く無味乾燥と云ふ言葉で盡きると思ふ之には吾々の責任もあるが何んとかも少し甘味のある潤ひのあるものにせねばならぬと考る例へば同じやうなものであつても砂糖と砂とは大變な違ひであるやうに地方行政が無味乾燥なひからびたものであつてはならぬから之に活を入れる一方本當に國民生活に直接喰入る政治を行ふやうにしたいと思ひ今後機會ある毎に種々な方面な人達と會つて直接その經驗やら希望を聞いてみたいと思つてゐる」と語つたと傳たへらる、之れある哉之れぞ即ち瀕死の地

方自治に對する起死回生の仁術であると信せらるのである。

新潟の新聞で交通道德標語を募集した處が「せまい道でもゆづれば廣い」といふのが一等に當選した、其作者は某印刷所の職工で其印刷所が縣道に面して居るので始終交通事故を見聞して居り此等の事故は交通道德が守らるればと眞剣に考へて譲りあふといふ氣持の人々の心に當にあつたならばと云ふ點から生れた標語だと作者が語つて居る何んとゆかしい心構であらう、相當の智識と學識と位地と、自尊心をもつ人々は恥づべき事ではなかるうか、推讓の徳は自動車の内よりは職場の隅から叫ばれると見らる。

○土木試験所報告 第三十四號(昭和十一年第二冊)が内務省土木試験所から刊行せられた、例に依り各種の試験の結果が登載せられて居るが劈頭青木技師の「瓦斯切斷による削稜が銕接の強度に及ぼす影響」の如き試験成績は斯業に取つて見逃すべからざるものがある。  
○工政(一九四號) 七月刊行の工政には臨時議會に於て重要視された「退職積立金及

退職手當法の講演會記録が三十八頁に涉り登載されておる、同法の施行により利害關係ある當事者の必讀すべき文獻である。

土木學會が多大の犠牲と執筆者が全力を傾注しての努力の結晶「明治以前日本土木史」は愈々刊行された、千二百頁の豫定は千八百餘頁となり内容に於て編纂に於て寔に珍重に値する著述である、我が土木學界乃至斯事業界は勿論汎く文化の上に多大なる貢獻を爲すの文獻たるを信ず。洩

定價一部 五十錢  
一ケ年分 金六圓

發行所 東京市麹町區外櫻田町一番地内務省內  
社團 道路改良會  
法人 電話銀座(57)四二七  
東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二

發行所 東京市小石川區諏訪町五六  
編輯者 小島 效  
印刷所 常磐印刷所  
印刷者 奈良直一